

平成26年5月25日(日) 日本を美しくする会

第207回 益田掃除に学ぶ会 お掃除通信

開催場所 安田小学校

校長 秀浦 眞吾

参加者数 14名

教頭 下脇 由記子

1、代表世話人挨拶 山崎純	2、体験感想発表
今日はとてもいい気候になりました。掃除をするには最適です。昨日、先般東京でありました鍵山相談役掃除道50周年、日本を美しくする会20周年記念大会のDVDと清風掃々23号が届きました。全国の活動の様子もわかりますので是非読んでみてください。また、DVDについては申込用紙がありますので、事務局まで仰って下さい。それでは今日も気持ちよく掃除をしましょう。	・渡辺 智明さん(益田市・千曲ダイドー) 初めて参加しました。高校時代にハウスクリーニングの手伝いをした時のことを思い出しました。このように家でやったことがなく、いつも嫁さんにやってもらっているんで、たまには自分でやろうと思いました
2、体験感想発表	・寺戸 健司さん(益田市・千曲ダイドー)
・上野 裕也さん(益田市・タイプック)	子供がまだ小さいので、子供のうんこは触っていますが、トイレも同じ気持ちで汚れが段々と気になってきます。家のトイレも綺麗にしたいと思います
中学生のころやった記憶がありますが、それよりもっと細かいところまで掃除ができて、いい勉強になりました。これからの生活や仕事に活かしていきたいと思います。	・大谷 宏明さん(益田市・タイプック)
・藤根 大介さん(益田市・タイプック)	今日は清々しい気持ちで参加できてよかったです。気温が上がると臭いが気になりますが、この臭いが自分のために役立つと思ってやっています。来月は益田小、子供が2人通ってますので、できれば子供と一緒に参加したいと思います。
今日初めて参加しました。トイレ掃除はしたことがなかったので、いろいろな道具を使って綺麗にしましたが、今までのがいに雑だったということを実感しました。これから会社や家の掃除を学んだことを活かしてやれたらいいと思います	・中西 秀之さん(周南市)
・岩崎 嘉幸(益田市・千曲ダイドー)	今日は洋式の便器を外すのに手間がかかりました初めて潤滑油を使い、部品を外すことができました道具の使い方も含めて、改めて掃除の奥の深さを感じました
久しぶりの参加で段取りを忘れていきびきびと行動ができませんでした。今日やってみて家のトイレもやらなければと思いました	3、ご案内
	毎月松江・出雲、下関、岩国、宇部、萩の月例会のご案内を頂いております。ご参加のご希望がございましたら、お問い合わせ下さい。事務局 岡崎 慎

4、鍵山秀三郎相談役のお言葉 清風掃々22号・巻頭言より
20年前に「日本を美しくする会」が始動した時、私は暗闇の中に一条の光を見ました。しかしその時の光は私以外は誰にも見えなかったでしょう。その活動を20年継続してきた今、まだ薄暗い夜明けの光ではありますが、多くの人にも曙光が見えるようになってきました。たった一人で掃除を始め、気がつけば50年の月日が経ちました。もちろん、くじけそうになることも沢山ありました私が望んでいるのとは反対方向へ世の中が動き、「私のやっていることは正しいのだろうか」と自問自答し、虚しさを感じたこともありました。しかし、この50年を振り返ると「本当にやってきてよかった」というのが心からの感想です。自分の歩む道に迷いを感じた時、諦めてしまう人は多いものです。しかし、結果を求めようとするならば「これしかない」という信念のもとに継続するほか方法はありません。人はとかく結果を急ぎがちです。しかし、たとえ望む地点までまだ到達していないからといって、投げ出してしまっはいけません。すぐに諦めているうちは完結させるのは難しいでしょう。時には遠回りに思えるかも知れませんが、必ず道は繋がっています。私は、目指す着地点とは一見脈絡のないようなところから着手してきました。周囲の人には理解できない部分もあるでしょう。しかし、一見脈絡のないことでも、継続するうちに一步步着地点に近づいているのです。・・中略・・経験の長さの壁を越えて、全員が一体となり和やかに活動できる会でありたいのです。技術だけを高めるのではなく、1人ひとりが成果を求めて集まり、活動することに意義があります。そのような会であり続けるためには、参加者全員がしっかりと役割を果たしたと言う気持ちで掃除を終えられることが大切です。だから、トイレ掃除でも街頭掃除でも、知識やスキルを学ぶだけでなく手持無汰沙にさせない実践環境が大切です。1人ひとりが責任を持って持ち場を掃除することに意味があるのです。細かい規則を作る必要はないと思いますが、1人ひとりが誠意を込めて最善を尽くしたと言える会になれば「日本を美しくする会」は今以上に明るく輝く光となるのではないかと思います。
5、森信三先生の教え (終身教授録より・人生は妙味津々)
真に意義ある人生をおくろうとするならば、人並みの生き方をしているだけではいけないでしょう。それには少なくとも人の一倍半は働いて、しかも報酬は、普通の人の二割減くらいでも満足しようという基準を打ち立てることで、ゆくゆくはその働きを二人前、三人前と伸ばして行って、報酬は少なくとも我慢できるような人間に鍛え上げていくのです